

令和 8 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	60	学校名	茨城県立藤代高等学校						課程	全日制		学校長名		大西 武彦			
教頭名	宮内 和広										事務（室）長名		加賀谷 智美				
教職員数	教諭	40	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	3	実習教諭、実習講師、実習助手		2	事務職員	3	技術職員等	4	計	58
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		131	112	128	106	122	113			381	331	18				

2 目指す学校像

- ・一人一人の生徒と誠実に向き合い、高い知性・たくましい気力・礼節を重んずる人間を育成する学校
- ・自らの力を信じ、問い続けながら主体的に生き、社会の中で真理を探究できる人間を育成する学校
- ・地域に信頼され、社会とつながりながら、生徒一人一人が成長と未来への希望を実感できる学校（安心感、藤高にきてよかった！）

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	・自ら問いを見出し、考え、判断・決定し行動できる自律した人財 ・規範意識と豊かな人間性を身に付け、健やかな心身と他者への思いやりをもって協働できる人財 ・郷土や社会に関心と誇りをもち、時代の変化に応じて価値を創造しながら社会に貢献できる人財
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	・授業を中核に据え、「知識を得る」から「意味を考える」学びへと質を高める ・「問う・任せる・振り返る」を軸に、生徒が主体的に学び、学び方を身に付ける教育活動を展開する ・教育課程全体を通して、課題発見・仮説・実践・振り返りの探究サイクルを回し、社会とつながる学びを実現する
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	・多様な分野に関心をもち、自ら問いを立てて学び続けようとする意欲のある生徒 ・自己の将来を見据え、自ら考え、判断し、主体的に行動しようとする生徒 ・他者と協働し、社会や地域と関わりながらよりよい未来を創ろうとする意欲のある生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	生徒の家庭学習時間が少なく、予習・復習に常に取り組んでいる生徒の割合は 50%以下である。受け身の態度で授業に臨んでいる生徒も少なからずいる。	生徒の学習意欲を高めるとともに、「問う・任せる・振り返る」を取り入れた授業改善を進め、自ら学ぶ姿勢の育成を図る。
進路指導	大学への進学希望が 90%以上であり、その多くが国公立大学や難関私立大学を希望している。達成状況は、少しずつ上昇傾向にあるが、満足できるレベルに達成していない。	生徒の適性・興味・関心を踏まえ、進路について自ら問い、考え、判断・決定できる力を育成するとともに、これまでの学びや経験を進路選択につなげる、組織的・系統的な進路指導を推進する。
生徒指導	交通安全面に関して、非常に危険な事例も発生しており、危険予測・事故防止についての十分な指導が必要である。	交通安全への意識を高めるとともに、自ら判断し行動できる力を育成し、規範意識と基本的な生活習慣の確立を図る。
特別活動	部活動や学校行事については 80%以上が充実感を感じているが、学習との両立に苦慮している生徒もいる。県の方針に従った健全な部活動運営を遵守する。	生徒に役割と裁量を与え、主体的な活動を促すとともに、活動の振り返りを通して自己の成長を自覚させる。あわせて、キャリアパスポートを活用し、学びや経験を蓄積・整理する。
働き方改革	社会の変化に伴い学校が抱える課題が複雑化・多様化する中、教員の長時間勤務の実態が明らかになっている。	業務の精選と効率化を図るとともに、教員一人一人が主体的に働き方を見直し、持続可能な教育活動の実現を目指す。

5 中期的目標

1 問いを通して意味を考え、活用できる確かな学力と、主体的に学び続ける態度の涵養
2 自己理解を深め、自ら問い、考え、判断・決定できる力を育む進路指導の充実
3 自らの行動を振り返り、よりよい判断と行動につなげる豊かな心と道徳的実践力の育成
4 社会や地域とつながり、主体的な関わりを通して学びを深める開かれた学校づくり
5 教育の質を高めるために業務を見直し、持続可能な教育活動を実現する働き方改革の推進
6 「問う・任せる・振り返る」を軸に、学びの質を高める授業改善の推進

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
確かな学力の涵養と授業改善の推進	① 問いを通して意味を考え、基礎基本の定着と <u>自律的に学び続ける力</u> の育成 ② 「問う・任せる・振り返る」を基盤に、生徒が自律的に関わり、 <u>思考・判断・表現につなげる授業</u> の実践 ③ 授業評価に基づく継続的な授業改善により、生徒による授業満足度 3.2 以上の達成と、国際理解教育の充実による、 <u>多様な価値観の理解と学びの深化・拡張</u>
一人一人に寄り添った進路指導の充実	④ 学びや経験の振り返りを通じた <u>自己理解</u> の深化 ⑤ 的確な情報提供と問いかけにより、 <u>自律的に進路を考え、判断・決定できる力</u> の育成
豊かな心と自律的態度の育成	⑥ 基本的生活習慣の確立と、自らの行動を振り返り改善する <u>自己管理能力</u> の育成 ⑦ 規範意識の高揚と、自ら考え判断し行動できる <u>自律的態度</u> の育成 ⑧ 学校行事・生徒会活動・HR 活動・部活動における、役割と裁量を与えた <u>主体的な活動</u> の充実 ⑨ 日常生活に潜むリスクを予測し、適切に判断し行動できる <u>危険予知・危険回避能力</u> の育成
社会に開かれた教育活動の推進	⑩ 教育活動の積極的な情報発信と、本校の <u>学びの価値の可視化</u> ⑪ 地域・保護者・外部機関との連携による、 <u>社会とつながる学び</u> の創出
持続可能な学校運営の推進	⑫ 業務の精選と効率化を図り、 <u>教育の質向上につながる働き方</u> の推進 ⑬ 教職員一人一人が主体的に働き方を見直し、 <u>持続可能な教育活動</u> を実現